

ニ ュ ー ス

日本の火山活動概況 (2010年7月~8月)

気 象 庁



図 1. 2010年7月~8月に目立った活動があった火山

吾妻山 ($37^{\circ}44'07''\text{N}$, $140^{\circ}14'40''\text{E}$)

大穴火口の噴気の高さは、50~700mで推移し、噴気活動はやや高い状態が続いている。

7月9日に実施した現地調査では、大穴火口の噴気孔下方で硫黄の燃焼と思われる青白い煙が上がっているのを確認した。その後8月23日にも同様の現象を遠望カメラで確認した。翌24日、福島県防災ヘリコプターによる観測でも噴気孔下方からの煙が確認されたことから、この間硫黄の燃焼が続いていたと考えられる。同様の現象は、2010年5月6日にも確認されている。

8月5日に実施した赤外熱映像装置を用いた現地調査では、前回(2010年5月16日)と比較して、大穴火口の地表面温度分布に特段の変化は認められなかった。

7月23日に実施したCOMPUSSを用いたトラバース法による火山ガス観測では、大穴火口からの二酸化硫黄放出量は一日あたり100~200トンで、前回(2010年5月16日)の一日あたり500~700トンと比べ減少した。

地震回数は、6月81回、7月50回と引き続きやや多い状況で推移していたが、8月は14回と少ない状況となっ

た。8月1日15時43分から約4分間にわたって火山性微動を観測した(火山性微動を観測したのは5月27日以来)。

8月5日から17日にかけて実施した大穴火口付近のGPS繰り返し観測では、前回(2010年5月21日~5月31日)の観測結果以降、火山活動によると考えられる変化は観測されなかった。

伊豆大島 ($34^{\circ}43'29''\text{N}$, $139^{\circ}23'41''\text{E}$)

火山性地震の発生回数は2010年7月以降、増加傾向がみられ、8月27日から29日にかけて島東部を震源とする地震が一時的に増加した。

7月23日及び8月31日に施した現地調査では、三原山山頂火口内及びその周辺に引き続き弱い噴気が認められた。三原山山頂火口内の中央火孔の温度や地表面温度分布は前回(2010年6月24日)の観測と比べて特段の変化はなかった。

GPS及び体積歪計による観測では、2009年秋頃から今年5月にかけて収縮傾向がみられていたが、5月下旬から伸びの傾向がみられる。

GPSによる連続観測では、地下深部へのマグマ注入によると考えられる長期的な島全体の膨張傾向が継続している。

三宅島 ($34^{\circ}05'37''\text{N}$, $139^{\circ}31'34''\text{E}$)

7月4日10時19分頃、継続時間の短い(約100秒)振幅のやや大きな火山性微動が発生した。また、同日14時34分頃、振幅のやや大きなやや低周波地震(約3~10Hz)が卓越する地震が発生した。火山性微動及びやや低周波地震発生時の噴煙の状況は雲のため不明であったが、同日行った現地調査では、島の東側の山麓(山頂火口から約3km)で微量の降灰を確認したことから、火山性微動及びやや低周波地震の発生に伴いごく小規模な噴火が発生したと推定される。

7月21日09時28分頃と10時39分頃にごく小規模な噴火(噴煙の高さはいずれも火口縁上300m)が発生した。10時39分頃のごく小規模な噴火に対応して振幅のやや大きな火山性微動が観測されたが、09時28分頃の噴火では対応する震動は確認できなかった。同日行った現地調査では、島の東側の山麓(山頂火口から約3km)で少量の降灰が確認された。なお、火山性微動の発生に伴い空振は観測されなかった。

噴火発生時以外の噴煙高度は火口縁上概ね100~400

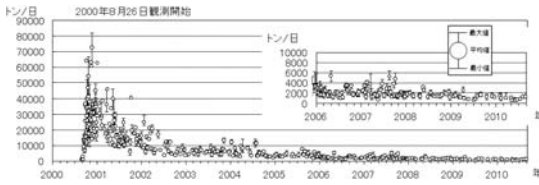


図 2. 三宅島 火山ガス（二酸化硫黄）放出量の変化（2000年8月26日～2010年8月31日）

mで推移した。

島内で実施した、COMPUSSを用いたトラバース法による火山ガス観測（期間中3回実施）では、二酸化硫黄放出量は一日あたり800～1,600トンと、依然として多量の火山ガス放出が続いている。また、三宅島の火山ガス濃度観測によると、山麓で時々高濃度の二酸化硫黄が観測されている。

火山性地震は増減を繰り返しながらやや多い状態が続いている。発生した地震のほとんどがやや低周波地震で、高周波地震（約10Hz以上が卓越する地震）も時々発生した。震源はいずれも山頂火口直下浅部と推定される。

全磁力観測では、火山活動とみられる有意な変化は観測されなかった。

GPS連続観測では、山体浅部の収縮を示す地殻変動が継続している。

硫黄島（24°45'03"N, 141°17'20"E（摺鉢山））

7月28日の上空からの観測及び29～30日の現地調査（いずれも海上自衛隊の協力による）では、2010年2月12日の観測と比べ、硫黄ヶ丘、^{すりばちやま}摺鉢山、^{あそだいかんぼつこう}阿蘇台陥没孔、井戸ヶ浜、漂流木海岸、北ノ鼻付近、離岩温泉跡、金剛岩付近の噴気の状況及び地熱等の状況に大きな変化は認められなかった。

また、島西部の阿蘇台陥没孔では、2010年2月13日の観測時と同様に、孔の中に溜まっている熱水の水位は低い状態で、ごく小規模な泥混じりの熱湯の噴出が断続的にみられた。

独立行政法人防災科学技術研究所の観測によると、地震活動は落ち着いた状態で経過している。

国土地理院の観測によると、島全体の隆起を示す地殻変動が2006年8月に始まり、2009年10月頃からは停滞していたが、今年5月から再び現れている。6月以降はやや鈍化した時期はあるものの、隆起は継続している。島内南北方向の伸びの傾向は継続している。

福徳岡ノ場（24°17.1'N, 141°28.9'E）

7月28日に海上自衛隊の協力により実施した上空か

らの観測では、福徳岡ノ場付近の海域で火山活動によるとみられる、わずかな変色水が確認された。なお、浮遊物は確認されなかった。

海上保安庁海洋情報部、第三管区海上保安本部、海上自衛隊及び気象庁によるこれまでの上空からの観測では、福徳岡ノ場付近の海面には長期にわたり火山活動によるとみられる変色水等が確認されている。

霧島山（新燃岳）（31°54'34"N, 131°53'11"E（新燃岳））

7月10日05時30分に小規模な噴火が発生し、灰白色の噴煙が火口縁上300mまで上がり雲に入った。この時に、ごく小規模な低温と推定される火砕サージが発生し、南西斜面を約300m流下した。また、7月5日11時03分にもごく小規模な噴火が発生した。

噴煙活動は噴火発生時以外は低調に経過した。

火山性地震は増減を繰り返しながらやや多い状態で経過した。

GPS連続観測では、2009年12月頃から山体膨張を示すわずかな基線の伸びが続いている。

桜島（31°34'38"N, 130°39'32"E（南岳））

7月は噴火が87回（そのうち爆発的噴火は77回）、8月は噴火が72回（そのうち爆発的噴火は64回）発生した。これらの噴火に伴い、最も遠くまで飛散した大きな噴石は4合目（昭和火口から800m～1,300m）まで達した。

南岳山頂火口では、噴火は発生しなかった。

COMPUSSを用いたトラバース法による火山ガス観測（期間中6回実施）では、8月4日、12日及び19日の観測では一日あたりの二酸化硫黄の放出量は500～600トンとやや少ない状態であったが、7月27日、8月6日及び26日は1,500～1,800トンとやや多い状態となった。

国土地理院によるGPS連続観測では、始良カルデラ（鹿児島湾奥部）の膨張による変化が引き続き観測されている。今年初め頃から桜島島内で見られていた伸びの傾向は7月頃から鈍化している。

鹿児島県の降灰量観測データをもとに解析した降灰量は、6月は約34万トン、7月は約71万トンであった。また、2010年の1月から7月までの総降灰量は約445万トンで、昨年1年間の降灰量（約235万トン）を上回っている。

薩摩硫黄島（30°47'35"N, 130°18'19"E（硫黄岳））

火山性地震はやや多い状態で経過した。

噴煙活動は雲のため山頂部を確認できた時間が少なく、時々噴煙が観測される程度であった。

諏訪之瀬島 (29° 38' 18" N, 129° 42' 50" E (御岳))

御岳^{おたけ}火口では、爆発的噴火を含む噴火が断続的に発生し、噴火活動は活発に経過した。

火山性地震及び火山性微動は消長を繰り返しながらや多い状態が続いている。

(お知らせ) 最新の火山活動解説資料は気象庁ホームページの以下のアドレスに掲載しています。

URL http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.htm

(文責：気象庁地震火山部火山課 岡垣晶子)

○人事公募**【大阪市立大学大学院理学研究科・理学部地球学教室】**

1. 募集人員：准教授または講師 3名（募集分野各 1名）
2. 募集分野：下記の 3つの分野

募集分野 (1)：地球物質進化学講座

地質学に基礎をおき、野外調査を重視して、地殻・マントルにおける諸現象に関する研究を岩体・岩石レベルで推進できる人。とくに、火成岩岩石学的手法を用いて研究を行う人。教育面では、岩石学に関連する科目や研究領域に関係の深い専門科目（大学院・学部）、野外実習関連科目（地質調査法や地球学野外実習など）、および全学共通科目の一部を担当できる人。

募集分野 (2)：環境地球学講座

地質学に基礎をおき、人類紀（第四紀）における自然史の研究を推進できる人。

とくに、野外調査を重視し、層序学的観点から、人間活動と自然環境との相互作用の評価や環境変遷史の解明などの研究を行う人。教育面では、新生代地質学、層序学に関連する科目や研究領域に関係の深い専門科目（大学院・学部）、野外実習関連科目（地質調査法や地球学野外実習など）、および全学共通科目の一部を担当できる人。

募集分野 (3)：環境地球学講座

地質学に基礎をおき、情報科学的・数理科学的観点から、地球学に関する情報や理論の研究を推進できる人。とくに、地球情報のモデリングや解析手法の開発などの研究を行う人。教育面では、地球情報学に関連する科目や研究領域に関係の深い専門科目（大学院・学部）、野外実習関連科目（地質調査法や地球学野外実習など）、および全学共通科目の一部を担当できる人。

3. 応募資格：博士の学位を有すること。
4. 応募書類：

- (1) 履歴書（写真付）
- (2) 論文・著書のリストおよび最近 5年間の学会発表リスト
- (3) 主要論文の別刷り（10編以内：コピー可）
- (4) 研究・教育・社会貢献に関するこれまでの経過と今後の抱負（3000字以内）
- (5) 推薦状を添付してもよい。
- (6) 申請者について紹介可能な人（2名まで）の氏名・所属・連絡先を添付してもよい。

※ 封筒の表に「応募書類在中」および募集分野（「募集分野 (1)」、「募集分野 (2)」、および「募集分野 (3)」の何れか）を必ず朱書きし、「書留」で郵送のこと。応募書類は返却しません。応募書類に含まれる個人情報、本人事選考のみに使用し、他の目的には一切使用しません。

5. 書類の送付及び問い合わせ先：

〒558-8585 大阪市住吉区杉本 3-3-138

大阪市立大学大学院理学研究科・理学部

地球学教室 教室主任 三田村宗樹

電話：06-6605-2592

E-mail: mitamura@sci.osaka-cu.ac.jp

6. 締 切：平成 22 年 10 月 18 日（月）必着
7. 着任時期：平成 23 年 4 月 1 日の予定
8. 選 考：当教室所定の手続きにより、地球学教室会議が選考し、理学研究科・理学部人事審査委員会で審査し、理学研究科・理学部教授会で決定します。選考の過程で必要に応じて面接を行う場合があります。この場合、交通費等は応募者の負担となります。選考結果は、平成 22 年 12 月下旬頃に通知する予定です。（上記のお知らせは火山学会メーリングリストに 8 月 24 日送信しました）

【北海道大学大学院理学研究院附属地震火山研究観測センター】

1. 職名・人員：非常勤研究員・1名
2. 募集専門分野：地震学・火山学・その基礎となる分野
3. 応募資格：
 - (1) 採用時に博士の学位があること
 - (2) 採用年度の 4 月 1 日現在で 35 歳未満
4. 任用期間：原則として採用日から 3 年間。ただし契約は 1 年度毎。
5. 着任時期：決定後できるだけ早い時期
6. 報酬：学歴によるが月額約 30 万円（短時間勤務職員として採用するために社会保険関係は適用されません）
7. 研究費：研究員には研究費を手当てします（平成 22

年度の場合年間約 62 万円)

8. 応募書類: (応募書類は個人情報保護に留意して取り扱います。返却は致しません。)
- (1) 履歴書
 - (2) 研究業績一覧 (査読つき論文, 査読なし論文, その他, 著書, 報告書等で特に参考になるもの等)
 - (3) 研究の計画と抱負 (A4 紙 1 枚程度)
9. 応募の締め切り: 2010 年 9 月 21 日 (火) 必着
10. 書類の提出先および問合せ先
〒060-0810 札幌市北区北 10 条西 8 丁目
北海道大学大学院理学研究院
附属地震火山研究観測センター 谷岡勇市郎
TEL: 011-706-2643 (代表)/
FAX: 011-746-7404 (代表)
Email: tanioka@mail.sci.hokudai.ac.jp
(「非常勤研究員応募書類」と朱書の上, 書留にて送付してください。)
11. 当センターの概要は以下のホームページをご覧ください。
<http://www.sci.hokudai.ac.jp/grp/isv/isv-web/file:///C:/%5CUsers%5CDocuments%20and%20Settings%5CMurakami%5CLocal%20Settings%5CTemp%5C%1B%24B%21%21%1B%28Bhttp:%5Cwww.sci.hokudai.ac.jp%5Cgrp%5Cisv%5Cisv-web%5C>
(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに 8 月 24 日送信しました)

【東北大学グローバル COE 博士研究員 (PD)・COE 助教の募集 (第 7 期)】

募集対象分野: 地震火山ダイナミクス研究サブグループ
応募資格: 平成 22 年 10 月 1 日までに博士の学位を有すること。

採用予定人数: 1 名

採用(予定)年月日: 平成 22 年 11 月 1 日からのできるだけ早い時期 (応相談)

任期: 2 年 (平成 25 年 3 月 31 日まで)

給与: 月額 30~40 万円程度 (総支給額, ボーナス含む)

応募方法: 次の書類を取り揃えて, 下記までお送りください。

提出書類:

- a 履歴書, 研究歴および論文リスト (査読付きとそれ以外とに分けること)
- b 研究計画書 (貢献できると考える研究内容を 2000 字程度で記すこと)
- c 応募に関して選考委員会が照会できる方 2 名のお名前と連絡先 (メールアドレス)

d 主要論文の別刷またはコピー 3 編以内

○送付先:

〒980-8578 仙台市青葉区荒巻字青葉 6-3

東北大学大学院理学研究科

グローバル COE「地球惑星科学」事務室

日下房子 宛

TEL & FAX: 022-795-6668/

Email: jimugcoe.es.tohoku.ac.jp

※封筒の表に「GCOE 地球惑星科学研究員・地震火山ダイナミクス研究サブグループ, 研究課題 (a または b) 応募書類在中」と朱記の上, 簡易書留でお送りください。応募書類は原則として返却しません。

○締め切り: 平成 22 年 10 月 6 日 (水曜) 正午必着

問い合わせ先: 本公募に関するお問い合わせは, それぞれ下記までお願いします。

○公募手続きならびに処遇について:

東北大学大学院理学研究科 グローバル COE

地球惑星科学事務室 日下房子

TEL & FAX: 022-795-6668

E-mail: jimugcoe.es.tohoku.ac.jp

○研究計画等について:

東北大学大学院理学研究科地球物理学専攻固定地球物理学講座 佐藤春夫

(グローバル COE 地球惑星科学・地震火山ダイナミクス研究サブグループ サブリーダー)

TEL & FAX: 022-795-6531

E-mail: sato@zisin.gp.tohoku.ac.jp

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに 8 月 24 日送信しました)

【静岡大学防災総合センター】

【仕事内容】

採用職名: 准教授または講師, 助教

専門分野: 主に理工学的視点から地震・津波など自然災害科学を研究されている方

【担当予定業務】: 学際科目「地震防災」(複数開講)の担当及びコーディネート, 災害科学に関する基礎研究の推進, 社会人対象の防災実務者研修における講義及び個別指導, 学内防災体制整備への参画, 静岡県庁及び県内大学で構成される「しずおか防災コンソーシアム」企画・運営への参画, 各種機関からの防災講演等の依頼への対応, その他

【勤務形態】

常勤 (任期あり・4 年)

勤務地 静岡市駿河区大谷 836

(静岡大学静岡キャンパス)

募集人員 1名 准教授または講師，助教

【応募資格】

- (1) 博士の学位を有する方（2011年3月末までに取得見込みの場合を含む。）
- (2) 静岡市又は静岡市近隣地域に居住できる方
- (3) 主に理工学的視点からの自然災害科学（地震・津波防災など）に関する研究業績を有する方
- (4) 行政官や防災実務者などを対象とした防災に関する講演・教育・研修の経験を有することが望ましい。

募集期間 2010年8月30日（月）から2010年9月24日（金）まで

応募書類は9月24日（金）必着のこと。

着任時期 2011年4月1日から

任期：採用日から2015年3月31日まで（4年間）

応募書類

- (1) 履歴書（研究歴，社会活動歴も併せて記入）
- (2) 業績リスト（論文は査読の有無を明記）
- (3) 主な著書，論文の別刷り（コピーも可）5編以内
- (4) 応募者の研究・教育経歴等について問い合わせることのできる方2名の氏名と連絡先（住所，電話，メールアドレス等）
- (5) 抱負

今までの研究業績や実践をもとに，静岡大学防災総合センターの業務に対して，どのように貢献できるかについて，2,000字程度で作成してください。

書類提出先

〒422-8529 静岡市駿河区大谷 836

静岡大学防災総合センター

電話 054-238-4502

E-mail: sbosai-office@sakuya.ed.shizuoka.ac.jp

（センター代表アドレス）

※ 応募書類は，封筒の表面に「防災総合センター教員応募書類」と朱書きの上，簡易書留，レターパック500，又は直接ご持参ください。ご応募いただいた書類は返送いたしません。

選考内容 書類選考後，必要に応じて面接を実施します。その場合の旅費は自己負担となります。

連絡先 〒422-8529 静岡市駿河区大谷 836

静岡大学防災総合センター

副センター長 准教授 牛山素行

E-mail: omushiy@ipc.shizuoka.ac.jp

TEL: 054-238-4546

募集要項アドレス

<http://www.shizuoka.ac.jp/guide/20100827.html>

http://jrecin.jst.go.jp/seek/SeekJorDetail?fn=1&id=D110080892&ln_jor=0

（上記のお知らせは火山学会メーリングリストに9月3日送信しました）

【東北大学大学院理学研究科地震・噴火予知研究観測センター】

1. 募集人員：技術職員1名
2. 所 属：東北大学総合技術部
3. 勤務場所：大学院理学研究科附属地震・噴火予知研究観測センター
4. 職務内容：地震予知や火山噴火予知の基礎研究のために必要な，地震，地殻変動などの高精度データの取得や蓄積を目的とした観測機器の設置，維持管理・保守，および観測機器の改良・開発における技術支援など。
年間数十日程度の陸上もしくは海上での野外活動・作業が含まれる。
また，コンピューターを用いた観測データの1次処理作業など。
5. 応募資格：4年制大学理工学系学部卒業以上（卒業見込みを含む）で，観測・計測あるいは計測機器に関連する職務経験を少なくとも1年程度以上有すること。
ただし，学部・大学院等における研究歴も資格要件の職務経験に含む。
6. 着任時期：平成23年4月1日（金）
7. 提出書類：
 - (1) 履歴書
 - (2) 職務内容調書（大学卒業後の職務の内容をわかりやすく説明したもの。
A4用紙2枚以内で様式は自由。）
 - (3) 着任後の業務に対する計画・抱負（A4用紙2枚以内）
8. 応募締切：平成22年11月15日（月）必着
紛失事故を避けるため，必ず書留で郵送して下さい。封筒には「技術職員応募書類」と朱書きして下さい。応募書類は返却しません。
9. 選考方法：書類審査，面接試験。
10. 書類提出先：〒980-8578 仙台市青葉区荒巻字青葉6-6
東北大学大学院理学研究科
地震・噴火予知研究観測センター
センター長 海野徳仁
電話：022-225-1950 FAX：022-264-3292
E-mail: umino@aob.gp.tohoku.ac.jp
11. その他：東北大学大学院理学研究科地震・噴火予知

研究観測センターについては、下記の当センターのホームページを参照して下さい。

<http://www.aob.gp.tohoku.ac.jp>

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに9月17日送信しました)

【東京工業大学火山流体研究センター】

1. 公募人員: 准教授または講師1名(任期なし)
2. 公募分野: 火山学。ただし、以下の4つの条件を満たすこと。

- (1) フィールドワークおよび化学的手法に基づいて、火山学の研究を世界最先端レベルで推進できること。
- (2) 化学専攻協力講座の教員として、学部学生および大学院学生の教育・研究指導を積極的に実施できること。
- (3) 草津白根火山観測所をベースとした草津白根火山での観測研究を実施できること。
また、その成果に基づいて全国の火山でモニタリング研究を実施できること。
- (4) 全国の火山噴火予知関連大学の研究者と共同して、火山噴火予知研究を推進できること。

3. 応募資格: 博士の学位を有する方

4. 着任時期: 決定後できるだけ早い時期

5. 提出書類:

- (1) 履歴書(高校卒業からの学歴および職歴)
- (2) 業績・実績リスト(査読論文とそれ以外の総説、著書、学会活動、外部資金獲得実績、受賞歴、その他に分類すること)
- (3) これまでの研究業績の概要(2000字程度)
- (4) 主要論文別刷(コピー可)5編以内
- (5) 今後の研究計画(2000字程度)
- (6) 今後の教育計画(1000字程度)
- (7) 応募者について意見を伺える方2名の氏名、所属、住所、電子メールアドレス

6. 応募の締切: 平成22年11月30日(火)必着

7. 応募書類提出先:

〒152-8551 東京都目黒区大岡山2-12-1 H-75

東京工業大学理学系事務係宛封筒の表に「火山流体研究センター准教授/講師応募書類在中」と朱書きし、郵便書留で送付してください。

なお、提出された書類の返却は致しません。また、応募書類に含まれる個人情報厳正に管理し、選考及び採用以外の目的には使用しません。

8. 問い合わせ先: 東京工業大学火山流体研究センター
草津白根火山観測所 野上健治

電話: 0279-88-7715

電子メール knogami@ksvo.titech.ac.jp

現在の当センターの教員の構成は以下の通り。

河内宣之 教授(センター長)

小川康雄 教授(草津白根火山観測所長): 地球電磁気学(地球惑星科学専攻兼任)

野上健治 教授: 火山化学, 移動観測(化学専攻協力講座; 地球惑星科学専攻併任)

神田 徑 准教授: 地球電磁気学(地球惑星科学専攻兼任)

詳しくはWEBをご覧ください。

<http://www.ksvo.titech.ac.jp/index.html>

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに9月17日送信しました)

【京都大学大学院理学研究科附属地球熱学研究施設】

募集人員: 1名

研究分野: 本施設の研究者と協力して、施設が行っている研究分野あるいは、その関連分野における研究を進展させると共に、地球熱学の新しい領域を開拓する意欲的な方を歓迎する。現在、本施設に所属している研究者やその研究分野等の詳細については、HP等(<http://www.vgs.kyoto-u.ac.jp>)を参照のこと。

なお、応募にあたっては、本施設の教員と必ず事前に連絡を取り、研究プロジェクトについて相談すること。

適任者が見出せない場合は、施設長(takemura@bep.vgs.kyoto-u.ac.jp)と相談すること。

応募資格: 着任の時点で、博士学位を有すること。

勤務地: 地球熱学研究施設(大分県別府市)又は火山研究センター(熊本県阿蘇郡)

着任時期: 平成22年11月16日以降の出来る限り早い時期。

採用予定期間: 原則として採用日より2年間(3年まで更新可)

待遇等: (1) 身分: 研究員(研究機関)

(2) 給与 月額約30万円

応募期限: 平成22年10月15日(金)

応募書類:

1. 履歴書 氏名、生年月日、住所、連絡先(電話およびe-mailも記載)

学歴 高校入学以降の入学年月日、卒業年月日

職歴

資格

賞罰 学会賞など

2. 業績目録 査読論文、査読なし論文、学会発表など

<博士学位論文題目も記載>

3. 研究の概要および今後の研究の抱負（各 A4, 1 枚程度）

4. 主要論文 3 編以内

応募方法: 上記書類を PDF ファイルで下記応募先に送付すること。

e-mail takemura@bep.vgs.kyoto-u.ac.jp

問い合わせ先:

〒874-0903 大分県別府市野口原

京都大学大学院理学研究科附属地球熱学研究施設

竹村恵二

電話 0977-22-0713（別府）075-753-3938（京都分室）

e-mail takemura@bep.vgs.kyoto-u.ac.jp

なお、本研究員（研究機関）ポストは、「* 現在、本研究員ポストについて検討中で、システムが変更になる可能性があり、京都大学からの平成 23 年度非常勤研究員経費が来なくなる場合もある。」の文章を付記させていただきます。

（上記のお知らせは火山学会メーリングリストに 9 月 22 日送信しました）

○平成 22 年度 東濃地科学センター 地層科学研究 情報・意見交換会

【日本原子力研究開発機構 東濃地科学センター】

日時: 平成 22 年 10 月 19 日（火）12:45~17:00

場所: 瑞浪市地域交流センター「ときわ」

（岐阜県瑞浪市）

（定員: 約 150 名）

「瑞浪超深地層研究所 深度 300m 水平坑道見学会」

日時: 平成 22 年 10 月 20 日（水）9:30~11:30

場所: 瑞浪超深地層研究所

（定員: 約 40 名）

※ いずれも、申込者多数の場合は先着順とさせていただきますのでご了承下さい。

※ 入場無料（事前の申込が必要です）

【申込先】

日本原子力研究開発機構地層処分研究開発部門

結晶質岩工学技術開発グループ

「H22 年度 情報・意見交換会」事務局

E-メールアドレス: tono-koukankai2010@jaea.go.jp

ホームページアドレス:

<http://www.jaea.go.jp/04/tono/index.htm>

（上記のお知らせは火山学会メーリングリストに 9 月 17 日送信しました）

○日本火山学会公開講座「火山学者と火山を作ろう in 京都」サポーター募集

本年度の火山学会秋季大会におきまして、関連行事として一般向けの公開講座「火山学者と火山を作ろう in 京都」を行います。この公開講座では、小学生以上の一般の方を対象として、火山現象のアナログ実験を行います。

実験は、リーダーの指示のもとに行いますが、実際に手を動かす実験でもあり、また、実験をしながら火山研究者と一般の方との交流を行うという双方向性の高いアウトリーチへの取り組みをしたいという意図から、サポーターとして参加・協力いただける火山研究者の方を募集いたします。

学会の講演会と同時進行の講座ですが、本公開講座の実施にご賛同いただける方のご参加を願っております。

以下、公開講座の予定です。

日本火山学会公開講座「火山学者と火山を作ろう in 京都」

公開講座は 2 日間行われます。

○2010 年 10 月 9 日（土）14:00-16:00

リーダー 林信太郎氏（秋田大）

テーマ「キッチン火山博士を目指そう！」

○2010 年 10 月 10 日（日）14:00-16:00

リーダー 高田 亮氏（産総研）

テーマ「実験のマジックで楽しむ火山噴火」

・各日とも約 30 人の一般参加者で、4 人程度の班を作り実験を行います。

・サポーターの方には、13 時ころに集まっておいただき、打ち合わせを行い、実験終了までご協力いただく予定です。

・1-2 班にサポーター 1 人がついて、実験の指導や、それに伴う質疑応答などを行っていただきます。

・実験の準備、後片付けなどは学生アルバイトの人に行ってもらいます。

ご協力いただける方は、協力いただける日を明記し、京都大学 金子克哉

kazan2010@gaia.h.kyoto-u.ac.jp までご連絡ください。

9 月 13 日までにご連絡いただけますよう、よろしくお願いたします。

お問い合わせも、上記メールアドレスをお使いくださ

い、

多くの方のご協力を望んでおります。

（上記のお知らせは火山学会メーリングリストに 9 月 1 日送信しました）

○火山防災シンポジウムの開催

「火山防災シンポジウム ―あすの火山観測体制と火山防災を考える―

2007年12月から気象庁は火山現象について予報及び警報を行なうことになり、2009年度から、47火山について活火山の監視観測体制の整備に着手した。

一方、2009年秋から桜島火山の噴火活動が活発化し、自治体や関係機関によって火山災害を軽減する取り組みも開始された。今後、活動の激化、あるいは噴煙による航空機の被災等、日本全土に影響を及ぼす大規模噴火への移行も懸念される。

最近の火山観測の整備や火山災害軽減の取り組みの事例紹介を踏まえ、火山災害を軽減するための監視観測体制と火山防災の在り方などを討議する。

主催：日本火山学会

共催：京都大学防災研究所附属火山活動研究センター

日時：10月8日（金曜日）13時30分～17時30分

場所：京都大学宇治おうばくプラザ（セミナー室4・5）

参加費無料。参加申込は不要です。

[内容]

第一部「活火山の監視観測と火山防災の取り組み
―最近の事例紹介―

プレゼンター：

清水 洋（九州大）、石原和弘（京都大学）、斉藤 誠（気象庁）、安養寺信夫（砂防地すべり技術センター）

第二部「活火山の監視観測と噴火警報―いかに火山災害の軽減に役立てるか」

パネリスト：

清水 洋、石原和弘、斉藤 誠、安養寺信夫、荒牧重雄、藤井敏嗣、鶴川元雄
（敬称略）

火山防災シンポジウムでは、研究者、防災関係者、行政、市民による自由な討論の場で探っていきます。ご遠慮なく、自由に会議に出席し、討論に参加ください。

日本火山学会 火山防災委員会

世話人 荒牧重雄、中村洋一、藤田英輔

（上記のお知らせは火山学会メーリングリストに9月1日送信しました）

○日本火山学会 2010 年秋季大会のアルバイト募集のお知らせ（再募集）

再度、日本火山学会 2010 年秋季大会のアルバイトを募集いたします。

先日、本メーリングリストにて、10月8日～11日の火山学会秋季大会のアルバイト募集を行いました。応募者が十分でなく、再度募集の呼びかけをいたします。

学会期間中、半日だけでも可能な人は、ぜひアルバイト応募をしていただけますよう、よろしくお願ひいたします。学部学生および大学院生のみなさんのご協力をよろしくお願ひいたします。

条件 時給 1000 円、交通費支給なし。懇親会参加無料
アルバイト時間 基本的に学会中で、原則として午前（8：30～13：00）、午後（13：00～18：00）を単位としてアルバイトを行ってもらう予定です。時間に制限のある人は申し出てください。

アルバイト内容 会場準備、学会受付、講演会におけるタイムキーパー、照明、マイク係、一般公開講座における講演会および実験の補助、アルバイトを希望の人は以下のフォームに必要事項を記入の上、件名「アルバイト応募」のメールにて

kazanjob@gaia.h.kyoto-u.ac.jp にお送りください

（上記のお知らせは火山学会メーリングリストに9月13日送信しました）

○訃報

火山学会会員の皆さま

訃報のお知らせです。

本会会員 村山 磐先生（東北学院大学名誉教授）が平成22年9月22日（水）午後6時20分、享年90歳にてご逝去されました。こころよりお悔やみ申し上げます。

葬儀は下記のとおりキリスト教式で執り行われます。村山先生のご冥福をお祈りし、謹んでお知らせ申し上げます。

葬儀ミサ 9月27日午前10時30分

喪主 村山濙子様（ご令室）

場所 カトリック北仙台教会

〒981-0915 仙台市青葉区通町2-5-25

電話 022-234-6942

（上記のお知らせは火山学会メーリングリストに9月24日送信しました）